

2023年10月4日(水)第一水曜祈祷会

コロサイ人への手紙1章1～20節

『天にある望み』

序論：コロサイ人への手紙・概論 *パウロの獄中書簡の一つ。

- ①コロサイの教会に異端的な教えが入り込んできた(霊肉二元論、割礼問題、安息日問題など)。
- ②エパfrasはこれらの問題にどのように対処すべきかを相談するために、パウロを訪問した。
- ③パウロもエパfrasも捕らえられていたため、パウロはこの手紙を書いて、テキコに託した。

本論：『天にある望み』

1. 「初めの挨拶」(1章1～8節) *「使徒」とは、神に遣わされ、神の使信を託された者のこと。

- ①「キリストにある忠実な兄弟」「私たちの父なる神」という言葉を通して何を表していますか。
→
- ②「天に蓄えられている望み」とはどのようなものですか。
→
- ③パウロは「福音」についてどのように要約していますか。
→

2. 「とりなしの祈り」(9～12節) *「とりなしの祈り」とは、神と隣人の間に立って祈ること。

- ①パウロはどのようにコロサイの人々のために絶えず祈り求めているのですか。
→
- ②「神のみこころについての知識に満たされる」ためにはどうしたらいいですか。
→
- ③「主にふさわしく歩む」とはどのようなものですか。
→

3. 「御子による救い」(13～20節) *罪(サタン)の奴隷から、義(神)の奴隷へ(ローマ6:22)

- ①御子は「見えない神のかたち」とはどのようなことですか。
→
- ②御子は「万物は御子によって造られ」とはどのようなことですか。
→
- ③御子は「そのからだである教会のかしら」とはどのようなことですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①「天に蓄えられている望み」について、あなたはどのように思いますか。
- ②イエスさまは私たちのためにどんな「とりなしの祈り」をされていると思いますか。
- ③「御子による救い」について、あなたにはどんな約束がありますか。